

学びと誇りが実感できるまち

～学力向上の取り組みに

成果が出ています！～

平成30年9月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人



快き秋の日和の匂ひかな

(高浜虚子)

まず、うれしい報告です。

先月12日（日）に行われた四県四郡市の総合体育大会において、庄原市が総合優勝を果たしました。これまで68回を重ねてきた大会ですが、庄原市の成績はあまり芳しくなく、ずいぶん優勝から遠ざかっていました。しかし、今回、軟式野球やグラウンドゴルフ、柔道など、10種目17競技に、中・高校生をはじめ学生や社会人の選手の皆さんがチーム一丸となって試合や記録に挑み、実に、平成2年大会以来、28年ぶりの快挙となりました。おめでとうございます。

さて、今回は、全国学力・学習状況調査結果についてです。子供たちの学力定着と向上を図るため、平素から「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを行ってきていますが、このたびの調査結果をみるとずいぶんその成果が出ています。

【平成30年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率）】 (%)

教科	小学校（第6学年）					中学校（第3学年）				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
庄原市	78	64	67	57	67	78	61	68	48	71
広島県	73	59	66	54	63	76	61	66	46	66
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

(A：基礎・基本問題、 B：活用問題)

庄原市の調査結果です。

小学校では、全ての調査教科において、平均正答率が全国平均、広島県平均を上回っています。中学校では、国語B問題において、全国平均、広島県平均と同程度ですが、あとは全て上回っています。教職員の研究姿勢や授業改善の努力、子供たちの学ぶ意欲やこつこつと勉強を継続する頑張りが、良い結果に結び付いてきています。

一方、正答率が低かった問題を精査してみると、国語も算数・数学も理科も、いずれの教科においても「書く力」を求められる問題に課題があります。

例えば、国語では「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く」、数学では「必要な情報を選択した理由を説明する」、理科では「実験結果を分析して考察を行い、その内容を整理して記述する」などがあります。

今後も、授業や家庭学習において「書く力」を付ける取り組みを継続して行っていく必要があります。頭の中では分かっていることでも、お互いおしゃべりはできなくても、それを書いてまとめる、整理する、というのは難しいものです。日頃から書くことを通して考える習慣を付けると思考力、表現力が伸びていきます。